

第29回 幼児のための「音楽と動きのつどい」

～保育専攻の学生へのアンケート調査に関する一考察～

29th Annual Concert for Children

～Lessons learned from a questionnaire of childcare faculty students～

友廣 憲子

I はじめに

本学では毎年秋に、オペレッタやダンス、吹奏楽、ミニステージ、歌遊び、手遊び、絵本などの研究成果発表を行っている。昨年は佐世保市体育文化館内コミュニティセンター5階ホール、収容定員600名のホールで第29回 幼児のための「音楽と動きのつどい」を開催した。演目は表現系科目・総合保育技術の授業の延長線上に発表を位置付けている。

発表会は学校関係者や保育園、幼稚園の園児たちを招き、園児の反応などを間近に感じることができる学生たちにとって貴重な学びの場である。

出演者は保育学科保育専攻1・2年生、206名である。



公演開催の趣旨は保育士養成校としての役割を意識化しつつ、幼児のための「音楽と動きのつどい」をコンセプトとして、本学の教育活動の一環として位置づけ、学生の日頃の授業成果を発表する場とし、子どもたちや保護者と共に、表現活動に親しむ機会を設け、地域貢献に寄与するものである。

開催を通して、保育者としての資質向上のために情操力や表現力を培い、表現音楽の技術向上を目指している。それらの練習のプロセスを経験することにより、子どもや保護者とのコミュニケーション能力を高め、社会人としての人間的な成長を促す。

コンセプトである「幼児のため」を具現化することの一つとして九州文化学園幼稚園年長児のマチング演奏とジョイントを行った。

本論は公演後、保育専攻学生にアンケート調査を実施した結果と感想文からこの公演を考察する。

1. 公演内容


**長崎短期大学**

**第 29 回 幼児のための
音楽と動きのつどい**

★日 時：平成 25 年 11 月 16 日 (土)
★場 所：佐世保市体育文化会館内コミュニティセンター 5 階ホール
〒857-0805 佐世保市光月町 6-17 ☎0956-22-1522
★開 場：13:00 ★開演：13:30 (15:40 終演予定)
★入場料：一般 500 円 小学生 200 円 幼児 無料

演 目

～第Ⅰ部～
★九州文化学園幼稚園年長児マーチング
★ピアノ連弾
★手あそびのせかい～三川内保育園の子どもたちと一緒に～
★オペレッタ「シンデレラ」



～第Ⅱ部～
★吹奏楽
★みんなよっといで! うたの広場
★桃太郎とゆかいな仲間たち
★ダンス

出 演

長崎短期大学保育学科保育専攻・九州文化学園幼稚園・三川内保育園

〈主催〉 長崎短期大学 〈後援〉 佐世保市教育委員会 長崎短期大学朋友会
〈問い合わせ先〉 長崎短期大学 ☎0956-47-5566

2. 構成メンバーの選出方法

- ① 総合保育技術の第 1 回授業（オリエンテーション）時に全員履修選択科目であることを説明し履修希望届を提出させる。
- ② 総合保育技術 6 つの選択の中から第 6 希望まで選択させ、高校時代のクラブ経験や動機、選択した理由を明記させ、バランスなどを考慮し、担当教員が振り分ける。
- ③ 吹奏楽は経験度を優先して選別

表 1 構成メンバー

科目名	演目名	1 年	2 年	合計
総合保育技術 a1 (α) オペレッタ	シンデレラ	38	11	49
総合保育技術 b1 ダンス	ダンス	20	27	47
総合保育技術 c1 吹奏楽	吹奏楽	17	13	30
総合保育技術 a1 (β) 絵本	桃太郎とゆかいな仲間たち	13	15	28
総合保育技術 a1 (β) 手遊び	手あそびのせかい ～三川内保育園の子どもたちと一緒に～	11	15	26
総合保育技術 a1 (β) 歌のお姉さん・お兄さん	みんなよっといで！ うたの広場	6	20	26
九州文化学園幼稚園 年長児	年長児マーチング	園児数		60
		60		

II 本研究の目的

4 月から 11 月公演後までの 30 回の活動を通してどのように感じているのか、アンケートと感想文を実施した。アンケートは項目によって 4 月と 11 月の変化を比較し、この活動の効果を考察する。

III 研究方法

1. アンケート調査

- (1) 対象者 保育専攻 1 年生 101 名 (107 名中)
保育専攻 2 年生 80 名 (99 名中)
- (2) 調査日 平成 25 年 12 月 10 日 (火) 保育専攻 1 年生
平成 25 年 12 月 11 日 (水) 保育専攻 2 年生

2. 感想文記入

平成 25 年 11 月 19 日 (火) 保育専攻 2 年生 102 名 (107 名中)
平成 25 年 11 月 26 日 (火) 保育専攻 1 年生 93 名 (99 名中)

IV 調査項目

1. アンケート内容

- ① 必要な保育技術の学び
- ② 演じるための必要な技術の学び
- ③ 仲間とのコミュニケーション能力の育成
- ④ 「発表」の場を「表現」の場として捉え、自分の思いや考えを表現する力
- ⑤ 学習意欲 (4 月)

- ⑥ 学習意欲（11月）
- ⑦ 学習内容への興味・関心（4月）
- ⑧ 学習内容への興味・関心（11月）
- ⑨ 音楽表現への興味・関心（4月）
- ⑩ 音楽表現への興味・関心（11月）
- ⑪ 知識の修得
- ⑫ 将来（保育者）への関連
- ⑬ 総合保育技術授業
- ⑭ 発表の満足度
- ⑮ 達成感

V 結果

表1 項目別割合（保育専攻1年生）

⑤非常に良い ④良い ③普通 ②良くない ①非常に良くない

	5	4	3	2	1
必要な保育技術の学び	38.6%	40.5%	20.9%	0.0%	0.0%
演じる技術	40.5%	46.6%	12.9%	0.0%	0.0%
コミュニケーション能力の修得	50.4%	28.9%	18.8%	1.9%	0.0%
自分の思いを伝える表現力の修得	35.7%	36.7%	25.7%	1.9%	0.0%
学習意欲（4月）	28.9%	30.6%	28.9%	9.7%	1.9%
学習意欲（11月）	45.5%	30.6%	23.9%	0.0%	0.0%
学習内容の興味関心（4月）	31.7%	34.6%	29.9%	3.8%	0.0%
学習内容の興味関心（11月）	50.4%	29.7%	19.9%	0.0%	0.0%
音楽表現への関心（4月）	38.8%	31.7%	25.7%	2.9%	0.9%
音楽表現への関心（11月）	47.5%	29.7%	22.8%	0.0%	0.0%
知識の修得	46.6%	33.5%	19.9%	0.0%	0.0%
将来への関連	55.6%	30.6%	13.8%	0.0%	0.0%
総合保育技術の授業	29.7%	21.8%	48.5%	0.0%	0.0%
発表の満足度	63.6%	24.7%	11.8%	0.0%	0.0%
達成感	75.2%	15.9%	8.9%	0.0%	0.0%

表2 項目別割合（保育専攻2年生）

	5	4	3	2	1
必要な保育技術の学び	32.6%	50%	16.2%	1.2%	0.0%
演じる技術	42.4%	35.1%	20.0%	2.5%	0.0%
コミュニケーション能力の修得	50%	40%	10%	0.0%	0.0%
自分の思いを伝える表現力の修得	27.5%	48.8%	23.7%	0.0%	0.0%
学習意欲（4月）	26.2%	25%	32.6%	15%	1.2%
学習意欲（11月）	40%	40%	20%	0.0%	0.0%
学習内容の興味関心（4月）	27.5%	35%	25%	11.3%	1.2%

第 29 回 幼児のための「音楽と動きのつどい」 ～保育専攻の学生へのアンケート調査に関する一考察～

学習内容の興味関心（11 月）	42.5%	40%	16.3%	1.2%	0.0%
音楽表現への関心（4 月）	31.2%	35%	23.8%	6.2%	3.7%
音楽表現への関心（11 月）	51.2%	40%	8.8%	0.0%	0.0%
知識の修得	36.2%	43.8%	20%	0.0%	0.0%
将来への関連	50%	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%
総合保育技術の授業	37.5%	37.5%	25%	0.0%	0.0%
発表の満足度	62.5%	28.8%	8.7%	0.0%	0.0%
達成感	75%	17.5%	7.5%	0.0%	0.0%

表 3 保育専攻 1 年生の成長できたこと（一部抜粋）

人を思いやる気持ち
自分に自信が持てるようになった
1 人一人が自分の役割を自覚し、きちんと行う大切さを学ぶことができた
人前で表現することを学ぶことができた
グループで取り組むことで、団結する大切さを学ぶことができた
団結力、協調性を得ることができた
子どもたちがどのようにしたら喜んでくれるか学ぶことができた
自分の意見を言えるようになった
苦手意識から逃げない忍耐力
責任感
衣装などを作成する創造力
わからないことなど自分から話しかけて聞くことができるようになった
一つ一つの練習が大きなものになること
色々な人の意見を聞くことで、自分の考えを様々な視点でみれるようになった
1 つの目標に向かい、力を合わせる事が出来た

表 4 保育専攻 2 年生の成長できたこと（一部抜粋）

自分なりに成し遂げる力がついた
頑張ったことは無駄なことではなく、誇りを持てた
他人の意見を受け入れることができるようになった
臨機応変さと時間厳守
コミュニケーション
1 年生と協力して行うことができた
協調性
自分の意見を言うことによって、より良いものができるということを学んだ
本番までいかにあきらめずに努力するか学べた
団結力

VI 考察

1. 表1の項目別割合（保育専攻1年生）

表1の「項目別割合」で着目したのは【コミュニケーション能力】の非常に良い50.4%、良い28.9%と高い割合になっていることである。要因としては、この活動が1年生にとって、2年生との唯一の合同授業であり、4月の当初は「憧れの存在」「近づきたい」けど「近寄りがたい存在」の先輩たちと共に30回の活動を通して自然と会話することが出来るようになったことや、指導者や先輩から「あなたはどうしたいの?」というメッセージを感じとり、「自分の考えや意見を言えるようになった」こと、学生同士も今まで会話を交わしたことのなかった同士が作品をつくりあげ的过程中で互いが協力していくことができたこと、時には意見をぶつけあう経験を重ねて作品が完成していく過程を経験したからだと思われる。

【学習内容の興味関心】について4月に比べ11月は高い割合になっている。4月当初は非常に良い31.7%、良いが29.7%と授業に対して割合が低かったのは授業の延長線上にある発表へのイメージが掴みにくいという点が考えられる。オリエンテーション時、筆者をはじめ各6人の指導者がどのような活動を行うのか、説明を行っているが、学生にイメージを明確に掴ませることは難しいものがある。しかし、活動場所に写真を掲示したり、機会があれば前年度（第28回）のDVDを鑑賞する機会を設けたことで、しだいに活動のイメージが膨らみ、学習への興味関心に対する数値が高くなったと考えられる。

【総合保育技術の授業】に対しては非常に良い29.7%良い21.8%普通48.5%である。

比較的低い数値になっている要因は「もっと効率よく授業をしてほしい」「施設の問題」「練習場所の確保」「活動によって人数が多すぎて出番が少なすぎる」「出番がない時の指導が必要」「進み具合が問題」など、検討が必要と思われる記述がある。今後は施設の問題は学校側に改善をお願いし、活動ごとの人数調整など改善できるところは改善に努めたい。また、学生の授業に対する姿勢意欲の向上につなげる教員間の協働を強化していきたい。

発表の【満足度】の項目について非常に高い割合で非常に良い63.6%良い24.7%【達成感】非常に良い75.2%良い15.9%と「満足」している様子が数値から、そして自由記述から裏づけられる。「授業時の練習では大変だったが子どもたちの喜ぶ姿を間近に感じることができて、頑張って良かった」「すごい達成感を感じた」1年生においては「来年はもっと良くしたい」など来年の抱負を述べている学生が多かった。

公演当日は付属の年長児が最前列で声援をしてくれ、間近で子どもたちの反応を感じることができ、ステージとなり、子どもに喜んでもらえるようなステージづくりを目指した学生達にとって素晴らしい体験となった。

2. 表2の項目的割合（保育専攻2年生）

【学習内容の興味・関心】は非常に良い27.5%、良い35%、普通25%良くない11.3%、非常に良くない1.2%という結果であった。理由としては1年次に経験したことがあるゆえに「大変だった活動をまたやらなくてはいけない」「2年生だから1年生を指導する立場にならなくてはいけない」などの記述から1年次に経験していることがかえって意欲低下につながっていると考えられる。確かに、206名の学生に6つの活動の中から選択させ、1つの活動をさせているが「希望した通りの活動が出来なかった」「活動によって1年生が多すぎて圧倒された」「1年生ばかり指導している」等、比較的希望どおりの活動に入れなかったことや、1年生と2年生のバランスが悪くどちらかの学年

ばかり多い活動の学生からの口述にこのような意見が多かった。希望した通り活動が出来なかった場合、意欲が高まらないという現象が、4月当初に顕著に表れる。しかし、11月の【学習内容の興味・関心】は授業が進むごとに「最後のステージだから、悔いの残らないステージ」にしたいという思いに変わり、「頑張ることができた」などの記述が多く見られるようになる。結果、非常に良い40%、良いが40%、普通16.3%に変化している。

【授業を通しての将来への関連】非常に良い50%、良い37.5%、普通25%と「保育者になった時に必要なスキルを学ぶことができた」等、この活動の意義を2年生は理解し、「今後に活かしたい」というコメントが多いことから裏付けられる。

2年生は半年後には保育現場で活躍する保育者の卵たちである。将来の自分の保育士像を様々な表現力が身につくこの活動でイメージすることができている。

【満足度】【達成感】の項目について「満足度」非常に良い62.5%、「達成感」75%と「子どもが喜んでいる姿をみて涙があふれそうだった」「苦労したかいがあった」「1年生と頑張ることができて本当によかった」「もう一度、あのステージに立ててよかった」など学生たちの感動、満足度が伝わってくるような記述が多くあった。



図1 オペレッタ「シンデレラ」

3. 感想文

1・2年生の感想文で自分が成長したことの記述から「自分なりに成し遂げる力がついた」「失敗しても、ここは頑張れたとプラスに考えられるようになった」「頑張ったことに誇りを持てた」「他人の意見を受け入れるようになった」「臨機応変さと時間厳守」「あきらめず、いかに努力するか学ぶことができた」「異年齢と仲良くなった」「子どもたちがどのようにしたら喜んでくれるか学ぶことができた」「苦手意識から逃げない忍耐力」など自己肯定につながる記述が多く、練習や公演発表を通して自分が成長できたという確かな自信につながっている。

Ⅶ まとめ

これらの結果から「コミュニケーション能力の育成」という学習のねらいはある程度獲得できていることが明らかとなった。この活動のような異学年で集団活動するには「人間関係を様々な角度から処理する能力」が必要である。自分の感情や行動を客観的に把握して行動すること、他者の気

持ちを敏感に感じ取る社会的感性が必要になる。これらの人間的成長にきわめて効果的な活動といえる。

発表が授業の延長線上に位置づけているため、各活動の細やかな指導が今後とも必要となっていくだろう。

学生に良いものを作ることを目標に、作品づくりに最後まで粘り強く取り組む姿勢。自分の表現したいものを表現する技術を養おうとする姿勢。集中力や責任感、自己管理能力の育成。自分の表現を客観視する能力。日常生活から意識的な表現活動を心がける姿勢を学生に身につけさせたい。そのことが保育者としての人間的な成長につながり子どもたちに還元されていく。

今回の感想文から「たとえ、失敗に終わっても、頑張ることは決して無駄なことではなく、自分に誇りを持てたことが一番だった」という言葉を今後の幼児のための「音楽と動きのつどい」第 30 回記念公演の取り組む励みとして、より良い公演になるよう努力を続け、学生の情操力を高め、創造性を育む表現活動を促進し、実践力と保育技術を向上させる保育者養成としてこの活動を実践していきたい。

付記 本研究は平成 25 年度長崎短期大学傾斜配分研究費より助成を受け行われたものである。

参考文献

- 「研究発表要旨」(2013)九州公私立大学音楽学会 北九州大会
神原雅之 鈴木恵津子 (2013)「幼児のための音楽教育」教育芸術社
谷田貝公昭 監修 (2014) 一藝社
下清水 広 岩城正幸 間井谷容代、尾田敬子 (2013) 本学院における表現活動への取り組み
奈良保育学院研究紀要
「保育者養成協議会セミナー 保育者養成と表現活動 総合性・専門性と学生の育ち」

5. 分科会 (第 5 分科会) 話題提供者要旨資料